

2月の学校生活の様子から

2月4日(水)には児童総会が行われました。6年生が進める最後の総会になりましたが、学校の顔として1年間がんばった6年生は堂々と進行・発表し、下級生に態度でお手本を示してくれました。参加した3年生から5年生の皆さんが、たくさんの質問や意見を出してくれたので、新役員の皆さんを中心にして、ぜひ来年度の児童会活動に活かして行ってほしいと思います。



2月10日(火)には全校そり・スキー教室が行われました。今年度から1年生はそり教室になりましたが、広いグレンデを使って思う存分雪遊びを堪能することができました。2年生以上はスキー教室を行い、インストラクターの指導を受けて上手に滑れるようになりました。物価高の影響で、スキー教室をやらない学校も出てきていますが、信州に生まれ育った子どもたちが等しくウィンタースポーツに親しむ貴重な機会として、来年度以降も更級小学校ではそり・スキー教室を継続していきたいと思っています。



2月12日(木)には今年度最後のたてわり活動がありました。来年度更級小学校の顔になる5年生が企画した「進化じゃんけんゲーム」を行い、学年の枠を超えて全校が仲良く遊ぶことができました。来年度はさらにたてわり活動を充実させていきたいと考えています。

2月13日(金)は5年生、20日(金)は3・4年生、24日(火)は1・2年生、26日(木)は6年生が、それぞれ今年度最後の授業参観を行いました。どの学年も、1年間がんばって成長した成果を子どもたちは堂々と発表していました。参観していただいた保護者の皆様には、温かいまなざしや拍手で子どもたちを見守っていただきありがとうございました。



2月校長講話 「生きる力とは何か？」より

みなさんこんにちは。今日、2月3日は節分です。去年の2月の校長講話は、節分についてお話したので少し復習をします。節分とは「季節を分ける」という意味なので、昔は「2月の立春・5月の立夏・8月の立秋・11月の立冬」の前日をすべて「節分」と呼んでいました。つまり、1年に4回も節分があったということです。そして季節の節目には「邪気」が入ってくると信じられていました。豆まきはその「見えない悪いもの」を鬼に見立て、それを追い払うために行われるようになった風習だと言われています。

さて、節分の鬼といえば赤鬼のイメージですが、実は節分の鬼の色は「赤鬼・青鬼・黄鬼・緑鬼・黒鬼」の5色あります。仏教では、修行の邪魔をする5つのマイナスの感情（煩惱）を「5つの鬼」に例えて色分けしました。それぞれの色の鬼は、次のような性格だそうです。赤鬼は、欲深く何でも欲しがる「欲しがり鬼」です。人間のすべての悪い心を表していると言われることもあります。赤鬼が一番有名なのは、この欲望があらゆる邪気の基になっているためです。青鬼は、悪口や嫌なことばかり言って、いつも怒っている「怒りんぼ鬼」です。黄鬼(白の場合もあるそうです)は、自己中心的で自分勝手にわがままな「わがまま鬼」です。緑鬼は、やるきが出ない、だらだらするという怠け者の「なまけ鬼」です。最後の黒鬼は、人を疑ったり、愚痴をこぼしたりする「人のせい鬼」です。2年生以上のおみなさんは、このお話を思い出しましたか？ なぜ豆まきをするのかがわかったので、今日は自分の心にいるかもしれない鬼を、しっかり追い払ってくださいね。

本題に入ります。校長先生が6年生の担任だった頃、3学期にやっていた授業がありました。それは、「『生きる力』ってどんな力だと思いますか？」について考える時間です。その時の校長先生のクラスでは、授業中にこんな意見が出ました。

- 「生きる力」とは、食べる力である。
- 「生きる力」とは、笑顔をつくり出す力である。
- 「生きる力」とは、感情や夢のことである。
- 「生きる力」とは、夢を信じる力である。
- 「生きる力」とは、喜びがある気持ちである。
- 「生きる力」とは、希望と助け合いと絆のこと。



どれも「なるほど」と納得する意見ばかりですね。この質問の答えは一つじゃないので、みなさんも今日のお話の後、各クラスで話し合ってみてください。ちなみに、校長先生は「『生きる力』とは幸せを感じ取る力である」と考えました。世の中には、お金や地位があってもつまらなそうな顔をしている人や、何不自由ない生活をしているのに文句ばかり言っている人がいます。また、そういう人とは反対に、他の人から見たら大変そうなのにいつもニコニコしている人もいます。では、いったい何が違うのでしょうか？ それは、「幸せを感じ取るアンテナの違い」と校長先生は思います。

幸せを感じ取る力が弱い人は、身の周りの小さな幸せに気付くことができないので、足りないことや不満なことに目が行ってしまい、周りに感謝するどころか文句ばかり言うようになります。そうすると、自分だけでなく周りの人も楽しくありませんよね。それに比べて、幸せを感じ取る力が強い人は、身の周りの小さな幸せを見付けられるので、そのことを感謝することができます。いつも感謝していれば、自然と周りの人たちにも優しくなれるので、当然周りの人たちからは優しさのお返しが返ってきて、どんどん前向きな気持ちになっていきます。そういう人は、きっと幸せな人生を送ることができるはずですね。

更級小学校の今年の合言葉の一つでもある、「ありがとう」をいつも素直に言える人や、ふだんの当たり前前感謝できる人は、きっと「幸せのアンテナの感度が高い人だ」ということになります。校長先生は、みなさんに幸せな人生を送ってほしいと思っているので、ぜひ自分の「幸せを感じ取る力」を磨いて、身の周りのことに感謝できる人になりましょう。3学期残りの29日間は、小さな幸せを感じながら、周りの人にたくさん「ありがとう」を言う日々にしてください。

保護者の皆様へ(連絡)

- ① 3月上旬に、令和8年度の年間行事予定表(案)をお配りします。現時点の案なので、今後修正される可能性があることは、あらかじめご承知おきください。なお、確定版は4月6日(月)に配布しますのでご確認ください。
- ② 年末に行われたバドミントンの全国大会に5年生の西澤紳さんが出場し、「5年生以下ダブルスの部」で全国3位になりました。今後の更なる活躍に期待したいですね。

